

川

柳

赤堀 晶子

(六会川柳会)

内定を取り消す威力あるコロナ
日だまりの縁でのんびりストレッチ
たまにならレトルトランチ乙なもの
変りゆく都心は今や知らぬ街
強さ維持無理かな五輪延期まで

浅井 栄

(辻堂川柳会)

ブラボーをぐっと飲み込むコンサート
飲みきらぬ薬引き出し占拠する
じじばばの首が伸び切る盆休み
視聴率局と役者の泣き笑い
紅葉を右に左にいろは坂

石川 正明

(湘南台川柳会)

テレワーク窓見て気付く丸い月
丸坊主人生初の思い切り
一点に魂込める刀鍛冶
出る杭と言われ挫けず匠道
金メダルサクラ意匠の威信かけ

板橋 美智子

何望む連れ添う貴男元気なら
顔触れが声かけあう散歩道
人生は知らずに増える背の荷物
生まれ来て良かったそんな人生に
捜さずに幸せなんて感じ取れ

井上 朗

岡本昌代

(六会川柳会)

(湘南台川柳会)

白雲も夢を求めて流れ行く
枯れ葉散るなぜか昔を思い出す
名月は心の内を照し出す
年とりて犬に引かれて散歩する
徘徊だ声かけられた有難う

ポケットにあなたのためのおそひとつ
忘れたら思い出すまで忘れてる
空気抜け風船そつと横たわる
乱れぬ隊列をはみ出したい蟻
ご近所へ今日は秋刀魚と換気扇

岡田 仁子

小澤 敏夫

(鵜沼川柳同好会)

(なぎさ川柳会)

テレビ見てスクラム押して肩がこる
高齢化ロボット相手会話する
暖冬に咲いていいのか迷う花
会計後見業で半額シール剥ぐ
先生の手が添えられて活きた花

父の背にペツタリ添えてある昭和
返納は高齢事故に刺激され
私生活直せのサイン血糖値
物忘れ同じですよと励まされ
別腹が女ごころを蝶にする

小野 敬子

菊地 政勝

カツラ買う違う私を期待して

(六会川柳会)

ペットでも身だしなみには金かかる

オレオレに間違う孫の声変り

ブランドの竿を揃えて雑魚を釣る

嘘泣きもとうとう効かぬ歳になり

初恋のライバルが居た同期会

眠るには惜しい気もする月あかり

五分五分の仲裁なのに不満出す

そば行くな虫の居所悪そうだ

絶筆のつもりで出した年賀状

河合 美子

今日 一

あかね雲晴れのサインか西の空

集まらずビール片手の長電話

信念を持つてコッコッノーベル賞

外面の割に家では頑固者

縁結むすび神はお留守か縁がない

水を替え少し和らぐ金魚の目

通り雨身を寄せ合うは傘ひとつ

採算で言えば五輪はもう赤字

世界中コロナ終息祈る日々

マスクして個性の消えた顔が増え

熊田松雄

斎藤融

(湘南台川柳会)

呱呱の声生き抜く力満ちている

大向こう唸らす芸の緩と急

まんまるのいのち弾ませ登校日

ドスの利く声をたたんで謙讓語

参観日野良着の母がかしこまる

ケ イ

坂本万里

(辻堂川柳会)

呆けたわね突つ込む妻も呆けはじめ

右書きののれん味にもぶれが無い

寝たふりが席をゆずらぬ意志表示

ベテランの鰻は今日も逃げおおせ

発車ベル薬味にむせぶ駅の蕎麦

旧友とつもる話で空しらむ

また豪雨異常気象は日常化

物真似のネタふる過ぎて孫キョトン

欲しいけど棚に戻そかこの値じゃね

若づくりでも年わかる立ち姿

流行語三密マスクテレワーク

アレ程に騒いだマスク棚積荷

つきたての餅も凶器になる恐さ

眠る子のそばで父さんテレワーク

防犯灯シャッター街の路地照らす

沢辺祥子

(湘南台川柳会)

綱引きと言えば安宅の関でしょう
諦めと未練たがいに譲らない
空っぽと知らず金庫と半世紀
かたくなだつた蓄からのぞく紅
目に物を言わせて猿に襲われる

島津富弥

(湘南台川柳会)

全力の汗の結果に悔いはない
手のひらに利権と書いてする握手
ふる里にもう居る場所がない孤独
気休めと医者も患者も知っている
苦労などどこ吹く風の笑いじわ

島脇信吉

(鶴沼川柳同好会)

死にぎわに長いセリフを言う芝居
部活の子どんぶり飯を五杯食べ
飲め飲めとうるさいほどのつぎたし魔
丑うしの日はうなぎ風味のふりかけで
高いので缶詰食べるサンマです

菅沼雅彦

頼みますコロナ総理と呼ばないで
早くしてコロナ防疫国施策
ムクドリも密をさけて楽しんで
桜散り待ってましたと真夏日が
スマホでは戻る操作がうまくなり

鈴木 明美

(鶴沼川柳同好会)

祝々と古希を迎えて今が旬
母の日はガールズトークで終った
いつだって飛べる準備はぬかりない
青じその緑にはまる和のこころ
うろたえたただけの男の曲がり角

青 窓

(湘南台川柳会)

過ぎた日を刻むつもりで作句する
Goなのか足元乱れ迷い旅
大声でおしゃべりしてる夢の中
ランチ会自粛で今日も残りもの
ウォーキングベンチ横目に進む亀

妹尾 安子

(六会川柳会 鶴沼川柳同好会)

太陽に払えばすごい光熱費
充分に生きたがコロナでは逝かぬ
幼児なら足のもつれも御愛嬌
たまに来る孫に教えを乞うスマホ
真似るなら良いとこだけにして欲しい

竹花 敏夫

(湘南台川柳会)

オレ流の生き方妻に操られ
乾杯に酒も苛立つ長話
妻の影踏まず離れず老いを生き
ランドセル格差社会も子に負わせ
子の背中知らぬ自分を見せている

田中邦彦

曇り空せめて今宵は月見そば
孫帰り残していつた障子貼り
紙破れ金魚涼しい顔してる
鳴り止まぬ拍手がせがむアンコール
無理だとは思ふ禁酒を朝誓い

ちか

(湘南台川柳会)

家猫もめだかもずっと自粛中
失言で中身が透ける金バツヂ
自信作胸に届かず番外地
いつの世もうまい話は無い話
妻が言うあなたいないと不便なの

戸澤千鶴子

無意識に手足踏ん張る歯の治療
遺影撮り出来は並だが手を打とう
日々届く荷物は嫁のネット買い
追伸がちくりと長い義母の文
筋書きは無いが人生完は有る

(湘南台川柳会)

中澤英風

回収車の音に慌てて走る妻
妻の影に下手な鼻歌さつと止め
コーヒーが入ったよーと妻を呼ぶ
じゃが芋の器量の悪さ嘆く爺
昼寝まで起こす自分の大騒

長嶋 富士子

(湘南台川柳会)

脳みその引き出し全部使い果て
夜なべして浴衣を縫った昔あり
手を取って歩く二人の老いの道
甘言につられた若さ悔まれる
プログラム差し替えながら効果練る

信 永 圭 子

(なぎさ川柳会)

孫たちと乾杯の夢天国で
夫亡き日々数えつつひととせに
歳重ね時計の針は早回り
老いていくおのが姿に母重ね
なさぬ恋別れ告げずに月見上げ

萩

台風にお願いコロナ吹き飛ばせ
年寄りもこつそり臨む夜の街
向い風サラリと避ける生き上手
新顔が盛り上げている国技館
ロボくんが客をもてなす令和の世

は じ め

(鶺鴒沼川柳同好会)

ヒトというウイルスが侵す青い星
ゴートウでコロナも共に旅をする
いま一度カミュのペスト読んでみる
リーダーのランク見える化したコロナ
人間の間の字の重さ知る自粛

幡多 純

古木 光江

(湘南台川柳会)

(鶴沼川柳同好会)

小学生予約をしないと遊べない

採れたての野菜に添える走り書

もしもの時家族で決めたてんでんこ

電子化にハンコは隅に押しやられ

マンションのドアにしめなわ新所帯

受験校ランク下げると言うアプリア

金釘の一枚のみの金無心

デパートの売り子が訛る催事場

声たてて笑えば介護今日も丸

了解とたった一言拍子抜け

深野 いく生

正 武

(なぎさ川柳会)

(辻堂川柳会)

妻の役母の役して親介護

滑つたり転んだりして夫婦道

怖いけど覗いてみたい黄泉の国

クレームを言わぬ地球が病んでいる

着せられた服に迷惑そうな犬

聞くゆとり持つと世間の裏が見え

保護猫を引き取り育て共に老い

豊かさを測る術知る菟寿の春

老い猫へどちらが先か問いかける

裏を見て表眇目で詠む川柳

水城 茂子

(六会川柳会)

皆マスク眼が光っているように見え

荷をとけば心に浸みる母の文

コロナ禍で家庭菜園せいを出す

柔らかな言葉で諭す強い母

だれもいぬマスク外して深呼吸吸

峰 敏夫

(鶴沼川柳同好会)

春秋もあといくつかと胸に問い

秋の海人影絶えていま独り

転んでは嗚呼またひとつ歳を取る

転びかけ駆け寄る人の手が温い

湧いてくる君はいないという思い

和 彦

(湘南台川柳会)

引分けでよしと一息次を期す

満員にスツポリ空いた予約席

手術室ランプが消えて医師の顔

米寿でも越すに越されぬ百八つ

賑やかに絵文字が躍る孫メール

村 田 憲 治

コロナなどいずれ終わるとたか括り

奥方に頭あがらず定年後

迎え火の炎に揺れる父と母

迎え火の向こうで友が手招きし

騙されて諦めに似た民増える

守田 貴美子

(六会川柳会)

誰か来る時だけ私きれい好き
高齢者ですとコロナに教えられ
居眠りはできても夜は不眠症
遠いのは距離ではなくて心かも
母の忌に留守電の声聞き直す

森 ひろし

(六会川柳会)

こっそりと誰にも言わぬお付合い
好きになり君の家まで尾行する
一つだけヒントがあれば解けるかも
考えた時間が惜しくなるクイズ
犬嫌い犬も知ってて横を向く

森 本生 雄

(生きがい川柳同好会)

若い日に描いた夢はやはり夢
歳末へ同じ思いの夢並ぶ
灯をともし家が優しい顔になる
似通った葉見せ合うクラス会
年金の割りによく出るごみ袋

柳 澤 いそ江

(鶺沼川柳同好会)

サンマ高鯛の刺し身で我慢して
有頂天言わでよいことしゃべり過ぎ
悪童を叱るに教師覚悟要り
最早世に怖いものなし妻以外
公家顔のバス運転手京の旅

山本 寿子

(六会川柳会)

ルックスに人の生き様にしみでる
夏長く秋短くて読書減り
コロナ菌政治欠陥あぶり出し
隅っこでイカサマ氏たち会議する
テレワーク仕事仕事と独りぼち

吉田 節子

(六会川柳会)

脳味噌をもみほぐしたい歳になる
ダイエットちよつと待てよと腹の虫
よその孫だけど触れたい紅葉の手
招き猫なでながら買う宝くじ
ウインドウに映る姿に背を伸ばす

吉野 健司

(湘南台川柳会)

膏藥を貼ってあげたい扇風機
蛇口から飲める水出る有難さ
標本に骨は大事と教えられ
深い意味ないと言われて知る深さ
ぜいたくな悩みと逆に聞く悩み

米山 かず

コロナ禍で木っ端微塵の経験値
テレワーク妻に支払うランチ代
夕飯時一喜一憂棒グラフ
惜しまれて匠の味が消えて行く
コロナ禍が思い出させる人の道

第三十四回ふじさわ川柳大会(誌上)記録

二〇二〇年一〇月

主 催 ふじさわ川柳大会実行委員会

共 催 (公財) 藤沢市みらい創造財団

芸術文化事業課

後 援 藤沢市・藤沢市教育委員会

参加人数 三五五名

課題 「練習」 瀬戸 一石 選

「添える」 青木 薫 選

「つれない」 渡辺 貞勇 選

「熱狂」 金子美知子 選

「訛る(なまる)」 菊地 良雄 選

「ランク」 島田 駱舟 選

特別課題

「むずむず」 妹尾 安子 選

課題 「練習」 瀬戸 一石 選

五 客

訓練も命抱いてる消防士 サチエ

特訓の汗をバットが知っている 鈴 美

レッスンに好きなシヨパンの弾む指 敏夫(竹花)

稽古量語る力士の足の裏 健 司

前向きの歩幅で励む試歩の杖 良 喜

三 才

人 ライバルがいて特訓に耐えた日々 昌 代

地 練習でする防災は上手く出来 道 子

天 リハビリに豆百粒をつまむ箸 喜太郎

軸 特訓を重ね明日へ夢を描き

特訓を重ね明日へ夢を描き

軸

特訓を重ね明日へ夢を描き

課題 「添える」 青木 薫 選

五 客

アマビエを添えて届いた請求書 象 堂

山盛りのキヤベツにカツが添えてある 秀 夫

謎めいた女心が添えてある とみ子

追伸に微量の毒が添えてある せつよ

追伸にしっかり食えと太く書く 甫 子

三 才

人

告白は添付ファイルでやって来る ゆみ子

地

秋だもの卵をポンと月見蕎麦 あやめ

天

土の匂い母の匂いの荷をほどく 泉

軸

寄席通い暮しに添えるアクセント

課題 「つれない」 渡辺 貞勇 選

五 客

失敗はくすりにになると放つとかれ とみ子

ツンとした顔で並んでいる秋刀魚 淳

見送りに出来ずコロナの骨を抱く 鈴 美

最初から金はないよと逃げられる 融

ティッシュなら貰うチラシはお断わり いく生

三 才

人

老いの身につれなく急かす自動レジ 壱 郎

地

老化だと決めつけられた診断書 美智子(平井)

天

退職はコロナのせいと素っ気無い 文 彦

軸

生返事だけが聞こえる倦怠期

課題 「熱狂」 金子美知子 選

五 客

喝采にカーテンコール幕閉じず

ひかり

追っかけの妻にコンビ二通にされ

和子(希佐)

沿道でちぎれるほどに振る小旗

久美子(橋倉)

ホームからSLファン溢れそう

光 人

町中が躍る阿呆に見る阿呆

和男(田中)

三 才

人

御輿揉む法被男は声が嘎れ

喜太郎

地

ゴール前黄色い声の僕の母

ひとみ

天

ニッポンの祭りだ御柱走る

和枝(鈴木)

軸

大輪の花火へ響めきの熱く

課題 「訛る(なまる)」 菊地 良雄 選

五 客

ロボットも二丁があれば訛ります

春 水

地元では誰も訛りと思わない

よしき

故郷の言葉で母を抱きしめる

ひとみ

説明に説明がいる郷土館

和男(田中)

語り部のまんずまんずが温かい

政 勝

三 才

人

トンネルを抜けるとラジオ訛り出し

喜太郎

地

嬉しくて標準語では語れない

あやめ

天

漁師町ここには生きる為の海

久美子(真島)

軸

先生のとおり訛るチイパッパ

課題 「ランク」 島田 駱舟 選

特別課題 「むずむず」 妹尾 安子 選

五 客

五 客

ケアマネに元気見せるかボケたろか

胸騒ぐ明日はいよいよ初給与

龍 助

番付表江戸時代から格差好き

いくこ 雅子(福富)

その答えわかる先生すぐ聞いて

啓 子

ボス争いサルの頃から変わらない

昌 代

意識した途端に背中痒くなり

卓 郎

桃太郎クールな猫は供にせず

かつみ

アトピーが大事な夜を食い尽す

尚(中田)

四捨五入並のランクに潜り込む

摩 季

新記録めざし今から腕が鳴る

和男(田中)

三 才

三 才

人

人

謝罪にも松竹梅があるらしい

博 之

ずれてます言えず部長の頭見る

雲 水

地

地

リーダーのランク見える化したコロナ

はじめ

黙祷の一分幼児にはきつい

壱 郎

天

天

順不同だけどデタラメとも見えず

正 幸

明日へのむずむず感が老けさせず

たかを

軸

軸

国連の拒否権神の舌となり

口はさむチャンスをじっと待つ姑

第三十四回 ふじさわ川柳大会 (誌上)

入賞者順位

一位	藤沢市長賞	九点	十二位	上見 大和	四点
	山本 喜太郎		十三位	竹中 正幸	四点
二位	藤沢市議会議長賞	六點	十四位	水野 壹郎	四点
	芦田 鈴美		十五位	林 博之	四点
三位	藤沢市教育委員会賞	六點	十六位	渡辺とみ子	四点
	相原 あやめ		十七位	牧内 摩季	四点
四位	鈴木 和枝	六點	十八位	田中 和男	四点
五位	近藤 道子	五點	十九位	橋倉久美子	四点
六位	菊地 政勝	五點	二十位	宇津野甫子	四点
七位	岡本 昌代	五點	次 点	真島久美子	四点
八位	阿部 文彦	五點			
九位	平井 美智子	五點			
十位	四分一 泉	五點			
十一位	木元 ひとみ	五點			

(採点方法)

三才は三点、五客は二点、

秀作は一点での配点の

合計点で、

同点の場合は受付順に順位付けをする。

